

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	05 農林業費	02 林業費	01 林業振興費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合		目標値
中事業	01	主要な取り組み	まず一歩、健康はウォーキングから		目標年度	令和6年度	
小事業	09	みのかも健康の森活用事業					

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	みのかも健康の森は、治山事業の一環として岐阜県と共同で整備し平成7年度に開園した。森林が持つ優れた自然環境を保全するとともに、市民の保健休養、学習の場として広く市民の利用に供することと環境保全の啓発を目的とした施設である。当施設の活用が進まなければ森林が荒廃していく恐れがある。加えて、開園してから約20年以上が経過しており、階段等の施設の改修や器具等の修繕が必要である。				
	事業目的	(1)対象 子育て世代、高齢者、軽登山客等 (2)目的 指定管理者制度を導入し健全な施設運営を図ることに併せ「健康」をキーワードにした事業を展開する。				
	事業概要	みのかも健康の森の管理運営を指定管理者へ委託し健全で安全な施設運営を推進 ・老朽化した施設の整備 ・「木育ひろば」を開設し木のおもちゃで遊べるスペースの開放、管理棟内の改修 ・整備された森林空間を活用し「健康」に焦点をおいた事業を展開 ・雨天時の来園者の確保を行うための「木工体験」等も実施				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	22,217	32,773	25,853	33,546	33,234
	決算額	21,539	31,805	24,550	31,973	
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	300 /		0		

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	健康の森 施設整備数(遊具含む)	目標値			1	1
		実績値			2	

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	健康の森入場者数(人)	目標値	80000	81000	81500	73000
		実績値	41000	49000	67000	68310

実 績	実績	<ul style="list-style-type: none"> 公園の運営(指定管理) 富士山遊歩道の整備 施設内設備の修繕(ベンチ改修、スピーカー修繕等)
	効果	森林、林内遊歩道の整備を行い利用者の利便向上、保健休養や自然観察の場としての機能向上を図ったことで、目標の達成には至らなかったが入場者数が増加した。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	施設の全体点検を、職員、指定管理者と共同で行い、効率的な修繕、回収を行うことができた。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	新たなイベントの実施などを企画し、来園者増加につながる取り組みを行ったが、引き続きコロナの影響により、バーベキュー利用が伸び悩んだため、目標の達成に至らなかった。
	実績からR06年度の事業の方向性	令和7年度の開園30周年に向け、引き続き新たなイベントの実施などを企画し新規来園者を獲得するとともに、伸び悩んでいるバーベキュー利用の回復に向けた効果的な宣伝等、来園者増加につながる取り組みを行っていく。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	02 林業費
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち!			01 林業振興費
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合	
小事業	01	有害鳥獣捕獲対策事業		目標年度	令和6年度	
				目標値	4,100千円 50.0%	

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	野生鳥獣が住宅地付近の荒れた里山や竹林に定着し、稲、野菜、豆類等の農作の被害だけでなく、水路や農地法面なども荒らされるなど深刻な被害を発生させている。				
	事業目的	(1)対象 市猟友会及び地域住民 (2)目的 有害鳥獣被害の軽減を図り、農家の営農意欲を高め農地の保全に繋げる				
	事業概要	農林産物等への鳥獣被害防止のため、美濃加茂市猟友会へ追い払いパトロールや、罟檻、ICT技術等を活用した有害鳥獣捕獲対策業務を委託。また地域住民による有害鳥獣被害対策(電柵設置、追い払い、里山整備)を実施した経費の一部を補助する。 最近の有害鳥獣ではイノシシ、サルやアライグマ等の外来生物の被害が増加しているため鳥獣対策が急務である。 個体数調整のための鳥獣捕獲が増加することにより、駆除を委託している猟友会員へ捕獲に必要な罟檻の購入費用増加等、会員の負担軽減対策、また地域でのネット柵設置の原材料支給などを行い、地域全体で鳥獣被害対策の推進を図る。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	26,289	23,105	22,742	23,133	25,549
	決算額	19,954	18,100	20,559	22,474	
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	2,000 /		3,000		

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	有害鳥獣被害防除のべ地域団体(団体) ・ネット柵設置 ・追い払い、整備	目標値	7	8	9	9
		実績値	14	15	19	22

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	有害鳥獣被害額(千円)	目標値	28000	25000	20000	19000
		実績値	22000	20100	19920	19900

実 績	実績	・鳥獣捕獲頭数 イノシシ220頭、ニホンザル2頭、ニホンジカ14頭 、アライグマ11頭、ハクビシン32頭、カラス75羽 、ムクドリ52羽、ヒヨドリ11羽 ・鳥獣被害防止対策補助金交付実績 電気又は防護柵設置 28件 追い払い機材等購入 2件 里山林整備 9件 有害鳥獣捕獲に伴う免許取得 1件
	効果	行政による鳥獣対策のほか、猟友会による被害防止捕獲の推進、市民による防護柵設置、追い払い等が行われている。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	市補助金等を活用した鳥獣対策が継続的に行われており、捕獲数も増加しているが、個体数の増加や生息域の拡大・移動により被害の減少傾向が鈍化し目標達成に至らなかった。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	行政での鳥獣防護柵整備や、猟友会による被害防止捕獲、市民による自衛等が機能し有害鳥獣による農業被害額は減少しているが個体数の増加や生息域の拡大・移動により被害の減少傾向が鈍化し目標達成に至らなかった。
	実績からR06年度の事業の方向性	引き続き事業継続していくとともに、生息域の拡大・移動に対応するため、猟友会等と協力し既存捕獲柵の再配置などより効果的な被害防止捕獲により被害額の減少を目指す。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	02 林業費	01 林業振興費
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち！	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合		目標値
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山		目標年度	令和6年度	
小事業	02	里山活用事業					

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	荒廃した里山は有害鳥獣の住処となり、付近の農作物への被害が増加している。また、それに伴って耕作放棄地が増加するなどの悪循環にも陥っている。そのため市では放置竹林の伐採や破砕、植樹などの里山整備を実施している。整備された里山には魅力的な資源や空間があるため、里山の有効活用が求められている。				
	事業目的	(1)対象 美濃加茂市内の里山林 (2)目的 森林整備により本来の里山を取り戻す、さまざまな里山再生事業を行い地域産業活性のモデル地区とする				
	事業概要	「里山千年構想」に基いた「里山千年基本計画」の実施に向け、「里山整備」「資源活用」「里山の利活用」を柱に里山再生を実施する。里山整備後の森林空間活用や地域連携、地域住民による維持管理意識付けに併せ、モデル地区として発信する。整備後の市内全体の里山林をフィールドとして企業との連携を通じた里山整備を推進するため「地域貢献の整備」と「社員の健康」を合わせた事業計画を策定し企業への働きかけを図る。森林経営計画策定等を実施することで、里山にある資源や空間を有効活用し持続可能な里山整備を推進をめざす。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	23,839	26,979	16,575	15,515	18,138
	決算額	22,145	23,890	14,534	12,984	
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	4,800 /		0		

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	里山整備講座の参加者(人/年)	目標値	140	150	150	80
		実績値	36	66	155	50

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	里山整備ボランティア活動のべ整備面積(ha)	目標値	0.9	1.2	1.5	1.6
		実績値	0.9	1.2	1.5	1.6

実 績	実績	<ul style="list-style-type: none"> 未整備人工林活用委託業務の実施 里山整備講座の実施 アベマキ学校机プロジェクトの実施 木育スタート事業の実施 里山千年構想推進補助金 新購入 28件 里山資源活用団体 4件
	効果	国の森林環境譲与税、県の清流の国ぎふ森林・環境税などを活用し、森林・林業・木材普及活動、担い手育成に向けての取り組みを行えた。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	前年度はコロナ禍であったこともあり、里山整備講座を単発開催とし、都度参加者を募集していたが、今年度は、通年実施とし、全ての回に参加できる方を対象としたため、参加者数は限られた数となっている。しかし、参加者はすでに里山整備を行っている団体からの参加者であったこともあり、参加者数以上の効果はあった。講座を開催するにあたり、毎回参加者数が一定以上あることから地域の方の里山整備の意識が上がっている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	森林整備を行う地域団体の活動が継続されており、里山整備の必要性の認知度が上がっている。
	実績からR06年度の事業の方向性	引き続き事業継続していくことで、里山の魅力、整備の必要性を地域の方に知ってもらい、利活用につなげていく。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	02 林業費
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち！	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合	
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山		目標値	4,100千円 50.0%
小事業	03	里山再生プロジェクト事業（定住）	目標年度	令和6年度		

インプット	事業実施の背景にある課題	圏域内の荒廃した里山は有害鳥獣の住処となり、付近の農作物への被害が増加している。また、それに伴って耕作放棄地が増加するなどの悪循環にも陥っている。美濃加茂市では平成27年度から近隣自治体や地域住民と連携し、放置竹林の伐採や破砕、植樹などの里山整備を実施している。これらの整備が継続されることで圏域内の有害鳥獣被害額（主な原因のイノシシによる）が平成26年度より55%減少しているが、未だ令和元年度の被害額が30,000千円以上と高額であるため、今後も引き続き計画的な整備と地域住民による維持管理が必要である。				
	事業目的	(1)対象(誰、何を対象にしていますか) 圏域住民、圏域内の里山 (2)目的(事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるか) 「圏域住民(子どもから大人まで)」が当たり前のように圏域内の里山の整備・活用を持続的に実施される。 圏域内の里山が持続的に整備され、有害鳥獣被害が減少する。				
	事業概要	有害鳥獣被害の原因である里山の荒廃に対して、各市町村で実施している森林環境税による里山林整備の補完的な事業を中心として、計画的な里山整備をする。地域住民による里山の維持管理を進めるとともに、里山が再び荒廃しないよう、一過性ではなく、自立(持続的)した活動にする必要があるため、里山の有効活用の取り組みや研究を進めていく。また、これらの活動にさまざまな人たちが関わることで、それぞれの「生きがい」や里山への「愛着」を生み出し、持続的な活動を行う。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	20,000	25,000	25,000	25,000	25,000
	決算額	19,910	24,999	24,999	24,999	
年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	320 / 0					

アウトプット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	圏域内整備のべ面積(ha) <伐採及び破砕処理>	目標値	25	30	35	60
		実績値	30	39	50	60

アウトカム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	地域住民による整備団体数	目標値	20	20	20	20
		実績値	19	19	19	24

実績	実績	里山再生整備事業として、美濃加茂市4.989ha(破砕工)、坂祝町1.025ha(伐採工、片付工、破砕工)、富加0.715ha(破砕工)、川辺町2.929ha(下刈工、破砕工)、七宗町1.014ha(下刈工、伐採工、片付工、破砕工)の計10.671haの整備計画を策定。可茂森林組合と契約を締結し、計画通り実施した。 美濃加茂市では、里山整備講座を行い、参加者が地域で整備事業ができるように育成をした。 圏域の鳥獣被害額は、25,131千円です。
	効果	令和5年度の地域住民による整備団体数は、24団体であり、令和4年度(19団体)と比較して26%増加したことから、里山再生整備事業実施箇所付近の住民の森林整備に対する意識は高まっている。

評価分析	活動指標分析 目標値の達成・未達成要因	重機借上げ等を連携市町で共有することで費用負担が軽減された。また、本事業の根幹となる森林環境税の里山林整備(バッファゾーン整備等)に連携市町が積極的に取り組んできた結果、昨年度の整備面積に対し約10ha増加した。
	K P I 分析 目標値の達成・未達成要因	森林環境税の対象外である竹の破砕(処分)を本事業で補うことによって、事後の整備が刈払機等で容易に行えるようになった。また、継続して本事業を行うことで、地域住民は関心を持ち、地域住民による団体数は24団体という結果となった。
	実績からR06年度の事業の方向性	森林環境税の里山林整備が拡大して進む中で、事後の整備が地域住民等によって容易に行えるよう、竹破砕の実施箇所については地域性を鑑みて選定する。また、有害鳥獣被害の軽減のためには一体的かつ継続した里山整備が必要と考えるため、引き続き本事業によって整備を行っていく。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課	
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	01 農業費	03 農業振興費
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち!	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合		目標値
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山		目標年度	令和6年度	
小事業	04	ふるさと農産物育成事業					

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	農業人口が減少する中、農業者には安定した経営が不可欠である。しかし、農産物の販路が少ない場合は災害等により突如として販路を失い、経営難に陥るリスクがある。そのため、販路を確保しリスクを分散させる必要がある。また、市の特産品としての農産物は、美濃加茂市を認知してもらう機会として求められている。				
	事業目的	(1)対象 特産農産物の生産者 (2)目的 親苗代の一部補助、里山と共存した農業の研究を行い、農業者の負担軽減や販路拡大により経営の安定を図るとともに特産品の安定供給を行い産地の振興を図る				
	事業概要	産地としての振興を図るため、国内外における販売促進活動等を実施する。また里山と共存した農業を研究し持続可能で高付加価値の農作物の推進を図る。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	4,792	3,818	3,018	1,218	1,221
	決算額	3,201	2,510	753	1,150	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	560 / 0				

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	調査及び生産者と協議(回)	目標値		2	2	2
		実績値		4	4	

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	市のブランドとなる農産物の発掘(品)	目標値		1	1	1
		実績値		2	1	

実 績	実績	特産農産物の販路拡大 市ECサイトでの農産物販売 ふるさと納税返礼品への登録 堂上蜂屋柿関連負担金 224千円 山之上の梨関連補助金 144千円
	効果	市の特産品としての農産物をPRすることで、美濃加茂市を認知してもらう機会が増えた。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	生産者にふるさと納税の返礼品として登録してもらうよう4回の協議を行った。生産者との協議を重ねることで登録数も増加すると考えられる。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	生産者との協議を4回行うことができたが、ふるさと納税の返礼品として登録することができなかった。今後は更に多くの生産者との協議を重ね、登録できるような農産物を発掘していく。
	実績からR06年度の 事業の方向性	引き続き、認定農業者に農産物をふるさと納税の返礼品として登録してもらえるよう協議を重ねる。また、登録により全国の人の目に市の物産品が触れるように販路の拡大を支援していく。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	01 農業費
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち!			05 自給力向上推進費
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山	KPI	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合	
小事業	05	水田農業構造改革市町村推進事業		目標年度	令和6年度	
				目標値	4,100千円 50.0%	

イン プ ット	事業実施の背景にある課題	近年、食料自給率の低下と共にめん類やパンなど、米以外の主食が増えて、米を食べる量が減ってきている実状がある。米が余ると農家が売れる時の米の値段が下がりがりすぎ、農家の収入が減ってしまう恐れがある。また、生物による水稲被害が問題となっており、被害を軽減する必要がある。				
	事業目的	(1)対象 水田農業者 (2)目的 一定規模以上の転作を行った対象者に交付金を交付し、水稲の需給調整と水田活用による他作物への転換を図り食料自給率の向上を目指すとともに、水稲被害の防除の推進を図る				
	事業概要	経営所得安定対策事業による米の需給調整の円滑な推進を行い、稲作及び水田を活用した他の作物への転換を組み合わせた生産性の高い水田経営を図り食料自給率の向上推進する。近年水稲被害の課題となっているジャンボタニシの駆除等を実施し被害の軽減を図る。また、各地区における集落座談会等の開催及び営農促進、需給調整の推進を農事改良組合に委託する。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	11,452	10,587	10,609	10,246	9,893
	決算額	10,030	10,106	9,487	9,390	
	年間の事業に要する時間(正職員/正職員以外)	650 / 50				

アウト プ ット	活動指標(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	各地区における米の需給調整および転作の広報活動件数(回)	目標値		2	2	2
		実績値		2	2	

アウト カ ム	KPI(単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	全体転作面積(ha) 休耕や農業用施設などは除く 市内農家の出作面積を含む	目標値		118.5	119	119.5
		実績値		100	118	

実 績	実績	集積利用交付金対象作物作付面積 8件 682,147㎡ ジャンボタニシ薬剤購入数 116個 防除協力人数 50人 ジャンボタニシパトロール駆除作業委託 639千円 各地区における米の需給調整及び転作の 広報活動件数 2回
	効果	転作を進めたことで水稲の需給調整を行うことができた。また、ジャンボタニシを駆除したことにより、水稲被害を軽減することとなった。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	営農計画書の提出時及び計画変更の確認時の2回、農業者に対して広報活動を行うことができた。
	KPI分析 目標値の達成 ・未達成要因	転作に関する広報活動を行ったことで、全体の転作面積は増えてきていると考えられる。目標値に届かなかった理由として、農業者に転作可能な地理的条件が合う土地が少なかったことや転作による経済的なリスクがあったことが考えられる。
	実績からR06年度の事業の方向性	引き続き転作を進めることによって、主食用米と転作物との需給調整を行い、農業者の経営の安定を図っていく。

令和5年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計		事業主体	02200000	産業振興部 農林課		
大事業	D1	6つのまちづくり宣言	産業振興	款項目	05 農林業費	02 林業費	01 林業振興費	
		目指す姿	活力と"豊かさ"あふれるまち！					
中事業	03	主要な取り組み	まもる農業、残す里山	K P I	1人当たりの市内総生産額 産業・観光振興に積極的に取り組んでいると感じる人の割合		目標値	4,100千円 50.0%
小事業	06	里山整備事業			目標年度	令和6年度		

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	適切に管理されない森林が増加しているため、水源のかん養、山地災害の防止など森林の有する公益的機能の低下が危惧されている。また、荒れた里山は有害鳥獣の住処となり、付近の農作物への被害が増加してしまう恐れがある。				
	事業目的	(1)対象 市内の一団の民有林 (2)目的 森林を計画的に間伐することで森林の公益的機能(山地災害、水源涵養など)確保に努める。 森林整備を進めることで有害鳥獣被害の軽減を図る。				
	事業概要	森林の価値が下がり現在は適切に管理されない森林が増加しているため、水源のかん養、山地災害の防止など森林の有する公益的機能の低下が危惧されている。地域住民の森林に対する要請も、鳥獣を含めた生態系の保全、地球温暖化の防止など、広範に多様化かつ高度化しつつあることから、市では「里山千年構想」を策定し関係機関及び企業との連携を推進している。 里山整備を効率的に実施するため、施業の集約化を推進することで岐阜県森林環境税を活用した里山林整備の推進、国の森林環境譲与税を有効的に活用する。 また、県下で初めての試みとなる広葉樹を含めた森林経営計画を策定し、持続可能な里山整備を行うことで「里山の健康」の推進を図る。 企業との連携整備、森林経営計画策定による持続可能な森林管理を行う。				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	76,103	63,404	69,227	25,776	13,150
	決算額	72,651	58,022	20,803	7,599	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	5,000 / 0				

アウト プ ット	活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	里山整備のべ面積(ha)	目標値	250	300	340	360	400
		実績値	251	302	397	461	

アウト カ ム	K P I(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	有害鳥獣被害額(千円)	目標値	28000	25000	20000	19000	18000
		実績値	22000	20000	19920	19900	

実 績	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・自伐林家型森林整備補助事業の実施 1件 ・森林整備地域活動支援事業の実施 1件 ・林地台帳システム保守の実施 ・治山施設整備の実施 ・破砕機管理の実施 ・各種協会等負担金の支払い
	効果	森林整備地域活動支援事業、林地台帳の更新を行い森林整備の元となる基礎調査を行い、今後の整備に向けた取り組みができた。また、自伐林家型森林整備補助事業にて小規模林業者の支援を行った。

評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	計画や住民要望等を勘案して各種森林整備事業を用いて整備が実施できている。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	適切な森林整備を行い、加えて鳥獣防護柵、被害防止捕獲の実施を行うことで、有害鳥獣被害額は減少しているが、個体数の増加や生息域の拡大・移動により被害の減少傾向が鈍化し目標達成に至らなかった。
	実績からR06年度の 事業の方向性	引き続き事業継続していくとともに、基礎調査の結果をもとにした効果的な森林整備と鳥獣害対策を実施することで被害減少を加速させる。